

健康のひろば

—19—

地元の医師がアドバイス

家内(五十八歳)のことですが、最近、物忘れが多く、少し前のことも覚えていなくなり、日時や曜日がわからなくなったりしています。知り合

者にも発症することがあります。若年性アルツハイマー病と呼ばれるもの、四十歳代から六十五歳までに発症するタイプです。

族性アルツハイマー病」と呼ばれる遺伝性の強い病気です。したがって若年性アルツハイマー病を疑わなければならないのは、家族の誰かがアルツハイマー病を

アルツハイマー病は六十五歳以上の高齢者に多い病気ですが、まれに中高年

者にも発症することがあります。若年性アルツハイマー病と呼ばれるもの、四十歳代から六十五歳までに発症するタイプです。

族性アルツハイマー病」と呼ばれる遺伝性の強い病気です。したがって若年性アルツハイマー病を疑わなければならないのは、家族の誰かがアルツハイマー病を

般に認知症の進行が早く、症状も重くなる傾向があるといわれています。身体的に健康であるため、「いわゆる歩ける認知症」となることが多く、介護者の負担がより大きくなる傾向があります。

さて、相談者のケースですが、若年性アルツハイマー病が強く疑われますが、確定診断をするために、専門医を受診されることをお勧めいたします。ご質問の内容だけでは、脳腫瘍とか、甲状腺機能低下症やうつ病のような治療の可能な認知症を完全に否定で

きないからです。また、たとえアルツハイマー病の場合でも、初期段階で発見できるとそれだけ進行を遅らせる期待が持てるからです。現在行われているアルツハイマー病の治療では認知症の症状である記憶障害や、日時や場所が分からなくなる見当識障害などの進行を完全に食い止めることはできませんが、症状の進行を一時的に遅らせることがある程度可能な薬が開発されており、また、アルツハイマー病の患者さんの中には、発症する前から

偏った食事をしてい
る人がかなりいるこ
とが明らかにされて
おります。これらに
ついては早期であれ
ば、食事療法を行う
ことよって症状の
進行を遅らせる可
能性があります。
とにかく一刻も早
く専門医を受診され
ることをお勧めいた
します。



(片平外科・脳神経
外科院長・齊藤武
志)

ふつうアルツハイマー病は六十五歳以上で起る老年性のものをいうので、これと比較して「若年性」とか「若年発症性」と呼ばれています。大きな母集団での調査がないため、どの程度の発生頻度かは不明ですが、まれであると考えられています。

若年性アルツハイマー病も老年性アルツハイマー病と同じような経過をたどって進行しますが、一

アルツの疑い、早期診断を